

はじめに

千葉市若葉区谷当町の一角に耕作放棄の谷津田がありました。農作物を作ったことがない都会人が、かつての里山の風景を見たい思いに突き動かされました。10年くらい眠っていた谷津田は開墾することからはじまり、1月から4月は草刈りに一心不乱、協力者が10人くらい土・日集まりました。3月から種まき、6月には田植えが出来たのだから、その気になってみんなで力を合わせると思いは繋がっていくことを実感しました。協力者を得るのに、様々なお誘い活動を繰り返し、ドラマを繰り返しながら、田植えや稲刈り、楽しむイベント、を実施しながら2014年10月1日に、千葉市・地権者・NP0バランスとの活動協定が締結できました。その後は、里山林の整備、自然観察調査、ホタルの調査もしっかり進み始めています。夜の観察会も楽しい物です。

里山の自然を観察することが楽しくなるほど、植物、動物が観察 出来、「冬期湛水・不耕起栽培」を続けることで生きもの達が戻って 来ました。子ども達もやってきて、賑やかな「堂谷津の里」が実現 してきました。

谷当町の村落も「谷当工房」はじめ、人々の訪れが多くなっています。地域が元気になる。里山が元気になる。多くの人たちの参加が里山を生かす活動になってきました。

次世代の人たちに繋げるには、さらに、様々な年代の人たちの協力が大切です。里山を維持する作業活動、里山を生かし楽しむ活動はみんなの思いが膨らみます。地球上の一角でも元気にする。「堂谷津の里」から発信します。 バランス 21:佐藤聰子

もくじ ······	1
	2
谷津田保全施索(千葉市)・・・・・	3
谷津田里山計画・・・・・・・・	• • • • • 4
主な事業・・・・・・・・・・・・	6~11
1・里山再生事業・・・・・・・・	6~ 8
2・イベント事業・・・・・・・・	9
3・教育、研究調査事業 ・・・・・	••••10~11
里山とは(参考資料)・・・・・・	• • • • 12
バランスの様々な取り組みと意義・・	13~
堂谷津の全図(見開き)・・・・・・	14~15
植物・動物(四季)・・・・・・・	16~23
千葉市「谷津田の自然の保全に関する	要項 ・・24
「地域」・「大学」との連携・・・・・	25
聞き書き (地域の歴史など)・・・・	27~28

<谷津の現状>

谷津は関東地方などに多く、かつては千葉市内にも130余りの谷津がありました。谷津田では米をつくり、谷津田に接する傾斜地では雑木やマツ・スギを育てるなど、谷津は農村の生活や経済を支える里山として大切に管理されてきました。

しかし、近年、農・林業が衰えるにしたがい耕作放棄地が増え、狭い谷津田では米づくりが行われなくなりました。また、斜面林の管理も行き届かなくなり、谷津の荒廃は深刻さを増しています。

かつて市内に130余りあった谷津も多くが埋めたてられ、現在は 堂谷津など60余りを残すのみとなっています。





<谷津田保全施策>(千葉市)

谷津は、湧水、谷津田(湿田)、土水路などの湿地環境とこれに接する斜面林や台地の畑などからなりたち、これらの環境が一体となって多様な生きものを育む「谷津田の自然」を形成しています。 生われるのあるこの豊かな環境を守り次世代に引き継ぐため、壬蔗

失われつつあるこの豊かな環境を守り次世代に引き継ぐため、千葉市は2003年に「谷津田の自然の保全施策指針」を策定しました。この指針のもと、堂谷津は地権者の同意を得て2008年に保全区域に指定されました。保全区域は田や林あわせて5.6haです。保全区域の2011年における状況は写真のとおりです。埋め立てなどの大規模な改変は免れていますが、谷津田は何年も耕作されず荒地となっています。斜面林も下草が生い茂った状態です。



谷津田の自然(千葉市、2004年)

NPO法人バランス21の活動

私たちは2012年にNPO法人バランス21を設立し、「谷当里山計画」のもと、荒廃した堂谷津に「谷津田の自然」を取り戻す活動を開始しました。谷津田で無農薬の米づくりを再開するとともに、ため池(堂谷津池)や斜面林の保全も行ってきました。

2014年には保全区域の地権者及び千葉市と活動協定を結び、現在は、堂谷津の保全を担う公認の団体として活動を続けています。

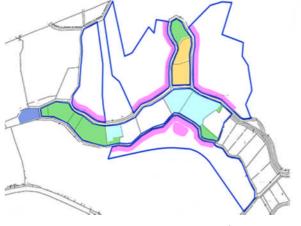
<谷当里山計画>

堂谷津は千葉市若葉区の北部、谷当町にある谷津です。そこから3kmの圏内には御成台、鷹の台、千城台といった住宅団地があります。バランス21はこの農村と住宅地が共存する地域で谷津の再生活動を続けてきたのです。

再生活動は荒地の草刈りに始まり、米づくりの再開、ため池・斜面 林の保全と続き、現在は自然観察路やビオトープの整備にも力を入 れるようになりました。



荒地の草刈り (2012年1月)



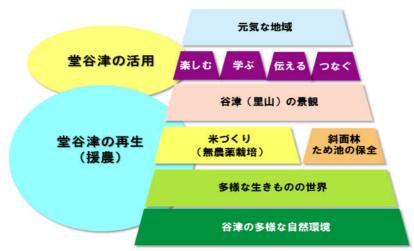
現在の活動範囲 (2014年10月)

保全区域を青い線で 囲みました。 塗りつぶした場所が 活動範囲です。

4年間の活動の結果、堂谷津にかつての景観が戻ってきました。 私たちは、今後の取り組みをとおして、この景観を農村と住宅地が 共存するこの地域の活性化に生かしたいと思っています。



「谷津田の自然」を満喫する(2014年5月)



谷当里山計画のイメージ

<主な事業>

目的達成のため、主として次の3つの事業を展開しています。

1.里山再生事業

谷津田の再生、里山の景観保全、生物多様性保全を目的とする事業。

・耕作放棄された谷津田を再整備。





・冬期湛水・不耕起・無農薬・無化学肥料の米栽培



アカガエルの卵塊が見られます



・冬期湛水の苗づくり

・ 冬期湛水・無農薬無化学肥料の泥んこ田植え





稲刈り





・里山林の整備(散策路の整備)



・斜面林の整備)



・ 斜面林から見下ろす



・森の休憩所



・堂谷津の池整備・水源になっている池の斜面林整備や漏水防止策





・ 林床の整備



・竹林から竹の切り出し



2・イベント事業

里山における食、文化活動、環境教育、関連物販などを行う事業。 都市住民・子供たちを招いて農作業体験・自然観察・生き物探し

・田植え体験



・稲刈り体験



・恒例の収穫祭



・里山の恵みに感謝し味わう収穫





3 • 教育、研究調査事業

子ども対象の環境教育、動植物、里山バンキングに関する研究調査 などを行う事業。

環境省は自然環境データを継続的に収集・蓄積する「モニタリング サイト1000里地調査」事業を実施しています。

バランス 21 はそれと同等の調査方法により毎月定期的に観察しており、2017年度末に予定されている次期のサイトの登録を目指しています。

アシナガグモの調査



· 定期自然観察調査



市民を招いての自然観察会

生物多様性の宝庫-谷津里山の環境を子どもたちに伝える



里山保全の重要性、里山の価値を理解いただくため講演会等を開催 日本アセスメント学会定例会が谷当で開催 「里山バンキングの提 案」堂谷津の里を対象としたミチゲーションの提案









地域と大学を結ぶ公開講講座(中村俊彦氏)東京情報大学メディアホール

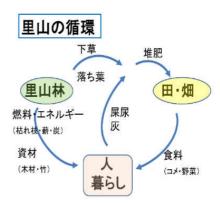




里山とは(参考資料)

「人が日常生活を営んでいる地域に隣接し、又は近接する土地の うち、 人による維持若しくは管理がなされており、 若しくはかつ てなされていた一団の樹林地又はこれと草地、湿地、水辺地その他 これらに類する状況にある土地と一体となっている土地をいう」と し、人々の生活と広くかかわる多様な環境の空間を里山として定義 している。(千葉県里山条例)

人々の生活・生業による 自然環境と生物・生命の多 様性と連続性、自然環境の モザイク的な空間配置がも たらした生態系サービス量 が豊かで自立し循環する持 続可能な生態系である。(中 村俊彦) 千葉県中央博物館 展示パネルより。



・ 谷当町にある姥嶽神社



バランス 21 の様々な取り組みと意義

バランス 21 では「里山」を広い意味でとらえ、様々な活動をしています。

・里山林の整備(下草刈り落葉掻き)により、これまで暗くアズマネザサやアオキなどに覆われていた林床に多くの草本類が生育できるようになる。(大野啓一)

里山の景観、そこでの営みを再生することにより、私たちの生活 を質的に豊かにする。 これらの活動が自ずと環境に好影響をもたら すものと考えています。

・灌水することにより、用水に含まれる肥料成分を田で吸収し、浄化機能が働き、印旛沼の水質改善にも寄与します。(冬期湛水・有機農法による水田による流域水質改善と生態系保全に関する研究 (中村、小倉ほか)

生物多様性の取り組み

冬期湛水、不耕起、無農薬による米作りにより、水辺の生きもの



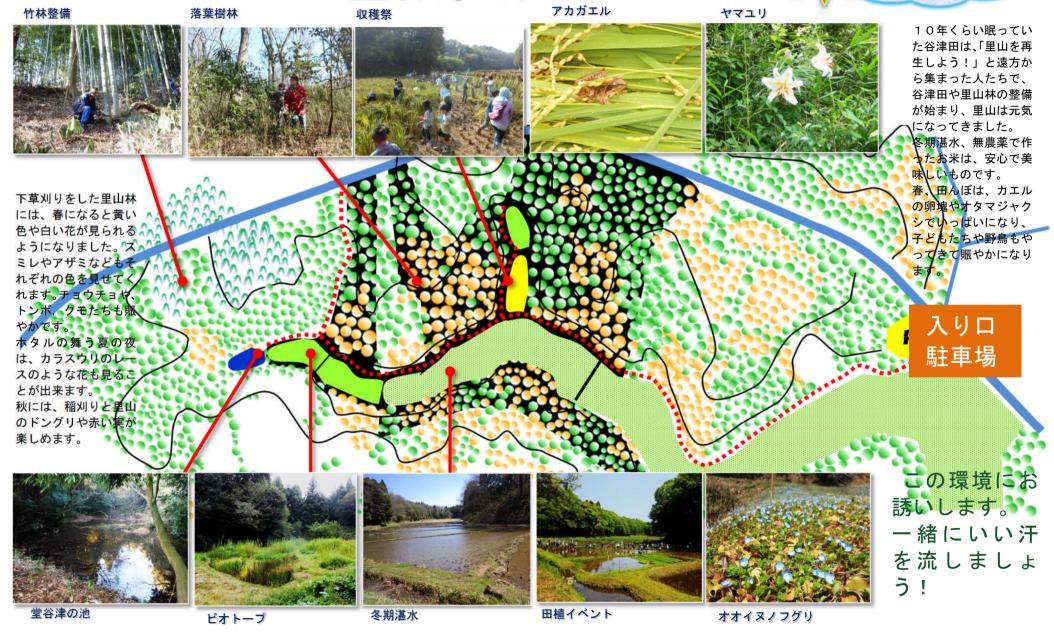
の生息数や種の数が増え、それを餌とする鳥類なども増 えることが期待され、多様な生きものが生息することに より、稲の害虫も抑えられます。

私たちは、生物多様性戦略の愛知目標(COP10 第 10 回生物多様性条約締約国会議・2010 年名古屋)を目指す仲間とし「にじゅうまるプロジェクト」(http://bd20.jp)

に参加登録し、またその活動の一環である「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトーみんなの力で日本の田んぼに生きもののに ぎわいを取り戻そう!」にも参加しています。

市民の身近な自然

堂谷津の里



春の植物・動物

2014年の冬に 斜面林や樹木 間の下草刈り をしたところ は、春には、 野草は花や、 群落を見せて くれるように なりました。



チツボスミレ





イカリソウ







・ニリンソウ



・フタリシズカ



・ワニグチソウ



夏の植物・動物

斜面林や林 床の草刈り によって、あ ちらこちら に、野草たち の花を楽し むことがで きるように なりました。





・オオカモメヅル



・キツネノカミソリ



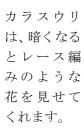
コバギボウシ



・ヤマホトトギス



・ヤマユリ









秋の植物・動物

野花とっ消るしゆをす草は咲としたさか感。のそ、姿てくとしじ開っそをいま奥さま



・ユウガギク



・ヤクシソウ





・キバナアキギリ



・ツクバトリカブト



・リンドウ



・イヌショウマ



・サラシナショウマ



昆虫達も、 飛び尾し、 を産むとと をを探し す。

冬の植物・動物

動物も植物 もそれぞれ の冬越しの 知恵や形を みせてくれ ます。







・ヤツデ (花)















・ハラビロカマキリ (卵鞘)

・オオカマキリ (卵鞘)





・ツヤアオカメムシ

・ニホンアカガエル (卵塊)



・キタテハ





・ホソミオツネントンボ



・ウラギンシジミ



・ノスリ



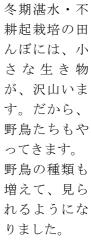
・セグロセキレイ



・アオジ

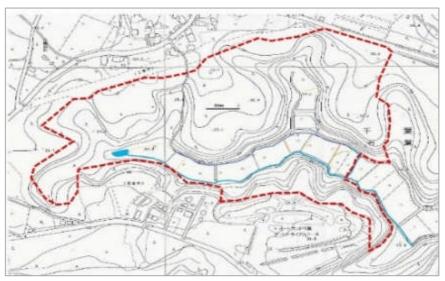


・ツグミ



・千葉市「谷津田の自然の保全に関する要綱」等に基づく、谷当地 区の概要とバランス 21 の活動の位置づけ。(2015.10.1 現在)

対象区域: 15ha



保全協定の早期締結を目指す区域:8ha ⇒

保全協定締結区域: 5. 6 9 ha (土地所有者さんと千葉市の二者で保全協定を締結)

活動協定締結区域: 4. 15 ha (NPO も加わる三者の活動協定を締結) ・千葉市環境保全課、地元の農家さんの協力が得られている。





・地域・大学との連携、広がりを進める。

地元谷当町の新年会や清掃活動などに参加するとともに、昔話を 聞かせていただいたり、収穫祭にもお招きして交流を図っています。

地元の情報大学と連携し、後援、協力をいただいてメディアホールで講習会等の開催をし、また授業の一環で堂谷津の里をフィールドにしていただきました。

また、2014 年からは千葉大、情報大の学生がボランティア研修、 インターンとして数名、バランス 21 の活動に参加しています。

・東京情報大学インターシップ研修





• 千葉大学ボアンティア研修





・NPO 法人バランス 21 の歩み

2011.11	4 人で耕作放棄された田んぼの再生(開墾計画)を始
	める。(内閣府の起業支援金応募、支援を受ける。)
	NPO 法人バランス 21 の定款の検討
2012. 1	千葉市役所、地権者の合意で、環境保全地区指定の堂
	谷津の草刈りを始める。
2012. 2	千葉県立中央博物館の専門家による学習会(下総の景
	相学、歴史・田んぼのプランクトン)
2012.2.14	特定非営利活動法人バランス 21 の登記「法人設立」
2012. 3	耕作を再開して初めての米作り着手
	いのちの壱、古代米(みどり米)
2012. 4.8	・キックオフシンポジウム 演題「急を要する未来農
	業」日本不耕起栽培普及会会長岩澤信夫(急逝したた
	め代理により実施)
	千葉県環境財団の助成支援を受ける。(ビニールハウス)
2012.10	初めての米の収穫
2013. 2	NPO 総会 理事 9 名任命 会員数 35 名
2013. 5	浦安より約 100 名の親子が田植え体験 以後毎年
	堂谷津の池調査 (千葉県環境財団の助成支援を受ける)
2014.8~	千葉大学ボランティア研修生 活動参加
2014.10.1	3 者による「活動協定」締結 合計約 4ha
2015. 3	冬期湛水・不耕起栽培の研修会開催
2015.6	里山林の樹木伐採、整備(千葉県環境財団、JT の助成事
	業の支援を受ける)
2015. 7	講習会「生物多様性の宝庫-谷津里山を子どもたちに
	伝える」開催 講師中村俊彦氏・斎藤幸一氏 (情報大メ
	ディア小ホール他にて
2016. 2	第4回 NPO 総会新理事加え9名(会員数45名)
	冬期湛水・不耕起栽培の米作り振り返り学習会
2016. 3	いのちの壱、ひめのもち、古代米 (黒) 種まき

(聴き書き)

堂谷津の池

かつて堂谷津の池の水位は 70cm 以上あり、子供たちはそこで泳いでいた。 下流は土水路で、印旛沼までつながっていたからドジョウが遡上してきていた。 水はきれいで、 湧水量はかなり多くこの 池の水だけで稲作をしていた。

田植えの前に、村中で池をさらってきれいにした。その時には大きなドジョウや小魚、雷魚、ナマズがたくさん取れた。昭和 25 年くらいまではニホンザリガニ、カワエビ、ウナギもたくさんいたし、カワウソ、モクズガニもいた。

側溝にモウセンゴケ(食虫植物)も自生していた。このあたりは 水が豊富で、地名は水に関係するもの(谷当、旦谷、下泉、大井戸 等)がほとんどだ。

周辺の開発で、広い範囲での土地利用の変化、山林の減少が湧水の減少に影響している。

• 稲作

稲作は通常最上流の田んぼから代掻きし、順に下に水を落として 代掻きしていた。水量の少ないときは、畦を高くして田に水をため ていた。

水の使い方はお互いに話し合って決めていて、争うことはなかった。 土水路は谷津田の両側及び中央にあった。

稲藁は人糞と混ぜて堆肥にし、代掻き前に田にまいた。

• 山林資源

山林には松と杉を交互に混植していた。そうすると杉が真っ直ぐに傷つかずに成長した。松は燃料になるし、家の梁になる。伐採すればそこが杉を切り出す道になった。

昭和 30 年ころまでは薪や米を千葉市内に売りに行った。 松の根元にはハツタケも自生した。その後、松の需要が少なくなり、根元の整備、管理をやられなくなり、マツ枯れ病が発生して、伐採が続き松林がなくなった。

谷当の史跡 (さらしな風土記より)

• 新照院 (現谷当町集会所)

真言宗豊山派の寺院。正式名「旦谷山医王 寺真照院」本尊は享保12年(1724)の木造・ 薬師如来像で光佑作である。弘法大師座像(木 造1825年作)が境内の小祠にあり、右手に5 坪の地蔵堂がある。



堂谷津の池には真照院にあった梵鐘が埋められているとの伝承が ある。

• **姥嶽神社**(うばだけじんじゃ)

安永 4 年 (1775) に創建された。祭神は、 大山咋命・大巳命であり、杉並木の参道を進むと本殿、拝殿がある。内には庚申塚、道祖神、疱瘡神などの石碑がある。





都市の人々と農村の住民が、一緒になって、緑あふれる穏やかな環境の中、地元で出来た農産物を使って、本物の安心出来る味噌、餅、蕎麦、などの食品を自分の手で作ります。また、「顔の見える」製品を頒布したり、地元の美味しいお米や野菜を知ってもらうため、都市と農村が交流を深めてゆく為に様々なイベントを実施します。手作りで安心な食品づくりに挑戦してみませんか。



お申し込み・お問い合わせ: わたしの田舎「谷当 (やとう) 工房」〒265-0072 千葉市若葉区谷当町70 TEL&FAX: O 4 3 - 2 3 9 - O 6 4 5 (年中無休) E-mail: <u>yatoukoubou@gmail.com</u> モノレール千城台駅⇒「さらしなバス」(農政センターゆきルート A) 谷当2番下車1分・無料駐車場(自家用車)



- *千葉駅からバス御成台車庫 45 分
- *東京駅から高速バス御成台車庫 60 分 御成台車庫から徒歩 15 分~20 分

2015 年度 JT 「NPO 助成事業」の助成を受けて

制作しました。

発行:特定非営利活動法人バランス 21 (NP0 法人)

協力: 谷当工房

参考資料:千葉市環境局環境保全課「里山の自然」

更科郷土史研究会編「更科風土記」

NPO 法人バランス 21

E-mail: yatosatoyama@gmail.com URL: http://balance21.jimdo.com/

連絡先: 千葉市若葉区谷当町 70

TEL&FAX: 043-239-0645 (現地)